



# 市政羅針盤

市長が自ら、市政運営の方針を分かりやすくお伝えします。 ㊟秘書課 ☎ 36-7117

## 今月のテーマ 市役所周辺整備事業「市役所本庁舎建設」について

新年おめでとうございます。本年も市政羅針盤のご愛読をよろしくお願い申し上げます。さて今月は、市民の皆さんから高い関心が寄せられている市役所周辺約 34,000 m<sup>2</sup>の整備について、第一段階として、市役所本庁舎を建て替える判断をしましたのでご説明させていただきます。

現庁舎は昭和 37 (1962) 年建築で、昨年で築 55 年を経過しています。コンクリート躯体の状態は、これまでの耐震改修により当面的間は正常に維持できるものの、外壁の劣化による雨漏りや水回りの配管の劣化、防火シャッターやエレベーターの老朽化などが著しく進んでいます。想定される震度 6 強の強い地震に見舞われたとき、災害対応の指揮系統が確保され、通常業務が維持継続できるだけの強度・設備要件を備えた市役所機能とは言い難い現状となっています。



老朽化が進む市役所本庁舎

たとえ大規模改修を行ったとしても、今後数十年の内には建て替えが必要となり、仮設庁舎の建設を含めて大規模改修にコストを掛けることは合理性に欠けると判断いたしました。

さらに、財源確保の観点からも、新島田市民病院建設事業に係る借入れのピークと重ならないよう調整し、合併推進事業債(元利償還金に対する交付税措置を受けられる)が活用できる 2023 年度までが資金調達にも有利

になることから、昨年 11 月市議会で本庁舎建設を表明いたしました。本年 1 月中には、外部有識者などによる検討委員会等を立ち上げ、さらなる検討を進めてまいります。

もう一つ、市民の皆さんが関心を寄せているのは市民会館の建設についてではないでしょうか。ただ今、行政負担の低減と公民連携によるまちづくりの可能性を探るための調査を実施しています。この調査の結果や、ワークショップでの市民の思い、そしてこれらを踏まえて検討委員会で協議した結果を基に、市民会館の建設について改めて判断したいと考えています。特に市民ワークショップでは、公共施設マネジメントの視点からの問題提起も行いながら、市



解体前の市民会館

民にとって真に必要な施設の在り方などについて、参加者の意見をお聞きしたいと考えています。

また、機能が類似するプラザおおり、夢づくり会館、川根文化センターの 3 施設の将来についても併せて判断する必要があります。市役所周辺は、中心市街地活性化の拠点としても重要なエリアなので、早ければ今夏にも、市役所周辺整備事業全体の方向性をお示しできればと考えています。

平成 30 年度からは市役所内に「資産活用課(仮称)」を設け、市役所本庁舎の建て替えをはじめとした諸課題に、スピード感をもって取り組んでまいります。

## みんなのひろば

皆さんから寄せられた地域の「ニュース」「イベント」「声」などを紹介します。

島田市内で皮膚科を営んでいた故伊藤豊成氏が、世界各地を旅行し集めた 5,000 本ものスプーン。これらを展示した「伊藤豊成コレクション世界のスプーン館」が、新潟県燕市の燕市産業資料館にあります。

館に入ると、伊藤氏の紹介ビデオが始まり、「古代のスプーン」や「暮らしを支えるスプーン」などさまざまなものを見て楽しむことができます。国や地域、時代によって多種多様なスプーンが使われてきたことが分かりますが、どんな

使われ方をしたかは見る人の「さじ加減」にもよるところも面白さの一つです。島田市民が残した素晴らしいコレクションを、ぜひ多くの人たちに見てもらいたいと思います。(ラフィーネ・ワインの会 栗原正明さん)

